同窓会山脈

いしかわ高校

羽咋高校〈上〉

県立羽咋高校は、1923（大正12）年2月創立の旧制羽咋中学校と1926（大正15）年3月創立の羽咋町立羽咋高等女学校を母体に1948（昭和23）年3月、戦後の学制改革により現校名に改称された。今年で創立88周年を迎え、能登地区を代表する伝統校であり、卒業生の半数以上が国公立大学に進学

校風を語る

羽咋高校同窓会長

安達利之氏
アル・モードウイングほんだ経営
（昭和30年卒・7回、宝達志水町）

伝統的に男女とも文武両道、質実剛健、今の生徒達も粘り強く率直で、よき伝統が脈々と受け継がれています。私の時代は、旧志雄町の自宅から4キロの道のりを徒歩で通学した。バスケットボール部に入り、インターハイに出場、その時の優勝校に2回戦で対戦し負けたことが思い出です。

文武両道と質実剛健

当時、部活で学校周辺を走る姿がよく見られたが、新しい行事で千里浜海岸でのマラソンが続けられている。毎年9月に学校祭が開催され、3日間の最終日に体育祭となりますが、自主参画、自主運営が伝統で、教師を巻き込んで活発に実施しているのが特徴です。

政官・経済界

地域に密着、骨太の人材多い

政官界は、富山県選挙区から衆院議員に選出された萩山教厳（高4、旧志雄町出身、氷見市）が唯一国政で活躍した。大蔵委員長、防衛庁副長官を歴任、6期目で比例復活したものの09年に政界を引退した。石川県議には、羽咋選出の小倉宏眷（高5）がいる。

山辺芳宜氏

地元羽咋市長の山辺芳宜（高11）は市議会議長を歴任し、08年11月に後輩にあたる6代目現職の橋中義憲（高19）を破り、7代目市長に就任した。4代目の塩谷一雄（中16）、3代目の本吉二六（中7）と歴代市長の座を占める。このうち、本吉は昭和8（1933）年の冬、羽咋中5年生のとき、校内弁論大会をめぐり教師に反発し、辞職を求めて生徒80人が末森山にろう城した事件の首謀者で同校の歴史に残る。現副市長の辻角邦昭（高11）ら同市役所には大勢のOBがいる。

県内の首長では、志賀町長を4期15年務めた細川義雄（高4）がおり、その現職を破り、合併後の志賀町長に就いた小泉勝（高37）は、米国のカレッジに進学、不動産業を営み、旧志賀町議、県議を経て現職。岡田一哲（高14）は旧志雄町の元収入役。

自治体関係では、中能登町教育長の池島憲雄（高16）、宝達志水町教育長の山下茂（高18）がおり、地方議会に羽咋市議の藤井敬一（高中退）、中村孝清（高7）、同じく中村重幸（高12）、金沢市議の田中仁（高22）、志賀町議の越後敏明（高19）、南政夫（高34）がいる。県外に灘区医療生協中央支部長の粟原富夫（高24）が神戸市議（新社会党）として活動する。

塚本哲雄（高4）、中村建治（同）、小寺進（高10）、北橋俊一（高11）、淺川治彦（高16）は旧志雄町議、木村武司（高12）、泉貢（高5）は旧鹿西町議を歴任した。

北橋茂登志氏

経済人では、大阪府内で美味なオムライスで有名な飲食店レストラン10店舗を展開する北極星産業など北極星グループの北橋茂登志代表（高6）が有名。総料理長でもあり、平成6年に仏料理普及貢献で「エスコフィエ」を受賞した。

母校の現況
設置学科（定員） 普通科200人（1学年）
所在地 〒925−8550
羽咋市柳橋町柳橋1番地
☎0767−22−1166 Fax0767−22−0791
現校長 木村明
特記 2学期制、スーパーイングリッシュランゲージ・ハイスクールに指定
同窓会事務局（学校内・疋島）
☎0767−22−1422（直通・平日午前9時〜正午）
Fax0767−22−1422

する進学校である。卒業生2万4千379人（2011年3月現在）を数え、県内外の幅広い分野で活躍している。

同窓生の自慢は校歌が国文学者で詩人の折口信夫が作詞していること。折口は羽咋市出身の教え子を養子に迎えたことから、羽咋に縁がある。校歌を刻んだ石碑が校舎前庭にたたずむ。

地元組では、「八幡のすしべん」チェーン29店舗を展開し、総菜製造、炊飯工場など5社、従業員約600人の八幡（羽咋市）グループを率いる久保順一社長（高12）が元気印だ。冨士電子工業（同）前社長の今井陽（高2）は子息の淳一（高29）にバトンを渡した。とり野菜みそ製造販売の㈱まつや（かほく市）の松本啓治会長（高2）も同じ。

羽咋中OBでは、立体駐車装置などの二宮産業（千葉市）の労網由雄会長（中6）、都心で新聞などを共同配送する丸の内新聞事業協同組合の古池國雄理事長（中11）、ハクイ印刷（羽咋市）の坂本聖二（中17）、東大阪市で温泉浴場「松竹温泉」を経営、関西石川県人会連合会長を務める松島信雄（中18）、関西商品取引所相談役の嶋崎一男（同）、大阪市城東区でスーパー銭湯「東福温泉」を経営する千田潔（中20）らがいる。

高校OB古参組では、不二技研工業（東京）の西井信夫社長（高2）、大阪府中央卸売市場に構える拓新水産の杉江芳樹社長（高6）、流体計測器製造販売の東京計測（東京）の越野傑社長（高7）、岐阜県で貨物専業鉄道を運営する西濃鉄道（大垣市）の津田秀雄社長（高8）、多摩パーツ（川崎市）の大矢昭雄会長（高10）、第一サッシ工業（同）の上井俊彦社長（同）、三高地所（東松山市）の高清社長（同）、アメックス（大和市）の中川弘（高11）、三幸開発（藤井寺市）の中谷昇敬社長（同）ら県外勢が健闘する。

60歳台では、坂室電機（宝達志水町）の坂室正昭社長（高12）、東亜さく泉工業（羽咋市）の吉田信社長（高14）、干場産業サービス（同）の干場満社長（同）、自動車整備の三景自動車（寝屋川市）を自営する上田三夫（高15）、一般廃棄物処理業の羽咋美装（羽咋市）の岡本宏嗣社長（同）、冨士トラベル石川（小松市）の安田嘉昌社長（高17）、丸建道路（金沢市）の北原憲治（同）、第一家具（志賀町）の鳥越正幸社長（高21）ら。

60歳以下になると、プロが選ぶ優良観光バス30選に11年連続受賞した冨士交通（金沢市）の岩田修社長（高23）をはじめ美容院・エステサロンのビューティーウエンズデー（御殿場市）の北口茂樹社長（高24）、清掃・廃棄物処理業、日本海美誠（羽咋市）の岩田光朗社長（高32）ら個性的な事業展開が目立つ。大手総合商社・双日（旧日商岩井）の中森亮政（同）はペルー社長の大任を果たし東京本社に戻った。

（文中敬称略、次回は文化教育、医療福祉、その他掲載）

羽咋高88年の歩み

1923年	2月	石川県立羽咋中学校設立認可
（大正12年）	5月	開校式挙行
1924年	3月	校友会創設
1925年	2月	新校舎本館竣工
1926年	3月	羽咋町立羽咋高等女学校設立認可
	10月	校歌制定
1927年	4月	羽咋高等女学校校友会を羽交会と称す
1928年	3月	羽咋高女、県立高等女学校に
（昭和3年）		羽咋中第1回卒業式、同窓会結成
		会長に五坪茂雄（羽咋中初代校長）
1930年	3月	羽咋高等女学校同窓会発会式
1931年	12月	同窓会誌「協和」第1号発行
1932年	5月	創立10周年式典挙行
1936年	10月	羽咋高女の創立10周年記念式挙行
1948年	3月	学制改革により県立羽咋高等学校に改称
	6月17日	開校式挙行、創立記念日とする
	9月	定時制課程設置
	11月	第1回マラソン大会開催
1949年	4月	県条例により学区制、男女共学、普通、農業、商業、家庭の総合制の羽咋高発足
1951年	6月	折口信夫作詞、下総皖一作曲の校歌制定
1953年	4月	農業科廃止
1961年	4月	定時制旧羽咋高女校舎に移転
1963年	4月	高浜分校設置
1964年	3月	創立40周年記念式挙行
	4月	商業科廃止
1965年	3月	本校高浜分校、高浜高校として独立
1968年	4月	家政科廃止、普通科単独校に
1970年	9月	新校舎へ移転
1971年	3月	図書館棟落成
1972年	4月	本校定時制、羽松高校（定時制）として独立
	10月	創立50周年記念式挙行
1973年	7月	プール竣工
1979年	7月	羽咋高校ＰＴＡ会報創刊号発行
1980年	1月	格技場竣工
1982年	3月	校門、杜の鐘周辺緑化整備工事竣工
	9月	創立60周年記念式挙行
1985年	1月	特別教室棟増築工事完成
1989年	4月	運動場整備2期工事完成
（平成元年）		
1990年	8月	第2体育館大規模工事完成
1992年	9月	創立70周年記念式挙行
1995年	4月	隔週5日制開始、65分授業導入
	9月	教室棟大規模改造工事完成
1996年	3月	第2体育館大規模工事完成
1997年	3月	第1体育館大規模工事完成
2000年	4月	50分授業に変更、募集定員5学級200人に
2002年	4月	学校週5日制完全実施、2学期制導入
	9月	創立80周年記念式挙行
2003年	4月	45分授業、1日7限に変更
2004年	3月	文科省スーパー・イングリッシュ・ランゲージハイスクールに指定
2005年	2月	推薦入学制導入
	6月	教室冷房化工事完了
2008年	2月	豪州・ワンサギ中等教育学校と姉妹提携